NIE実践報告

1．タイトル：☆くらしをささえる情報

2．学校名

北海道函館市立神山小学校

3．実践者名（代表者名）

深澤昌明

4．学年

第5学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

社会　33人

6．単元（本時の学習課題）名

啄木の選んだ「新聞社」の仕事

7．目標(狙い)

啄木が記者となった理由を考えることを通して、新聞作りに携わる人の願いを考えることができる。

8．評価の視点

○啄木が記者となった理由を考えることを通して、新聞作りに携わる人の願いを考えることができる。
○啄木の思いや現代の新聞に携わる人々の苦労や願いに迫ろうとしている。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

社会科　~　くらしをささえる情報（教科書教材：教育出版）12時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①オリエンテーション　―　天気予報をきっかけに毎日の生活に生かされている情報や伝達手段に感心を持つ。（2時間）
②新聞を見てみよう　―　新聞紙面を実際に読んでみて比較して、新聞作りの工夫や苦労を見つけたり、疑問をもったりする。（1時間）
③新聞ができるまで　―　新聞ができるまでのしくみを知る。（1時間）
④身の回りの情報を記事にしてみよう　―　情報を伝えるために必要なことを考えよう。（1時間）
⑤啄木が選んだ「新聞社」　―　啄木が記者となった理由を考えることを通して、新聞作りに携わる人の願いを考えることができる。（3時間）
⑥新聞作りの魅力を聞いてみよう　―　記者の方から、新聞の魅力を聞いて、情報に関わる人の願いや努力、工夫を理解する。（1時間）
⑦よりよい新聞を目指して　―　新聞を見直して、より多くの人に関心を持ってもらえる新聞にしよう。（4時間）

11．児童・生徒の反応、感想・意見

石川啄木が函館・小樽にいた頃の新聞と現代の新聞の比較から多くのことを感じ取っていた。しかし、どの時代にも共通していることとして、早く正確に知りたい情報を伝えたいという新聞記者の思いを感じ取ることができていた。

12．成果と課題

この単元は教科書ではテレビを取り上げている。しかし、伝える情報の源と両としての新聞の価値と手元に残る資料として意味合いの強さを感じることができた。何より、教科書の教材であるので年間指導計画に組み入れられる。函館地区では数年前から市内の研究サークルでの実践として数多く積み重ねられている。今後はいかに広げていけるかが課題である。